

令和8年産水稻の作況調査結果と当面の技術対策

米麦畜産課
(農産振興室)

生育ステージ	早期：穂ばらみ期～出穂期（コシヒカリ） 早植：分げつ盛期～幼穂形成期 普通期：活着期～分げつ盛期
生育概況	早期：生育は概ね順調。出穂期は平年並～やや遅れると見込まれる（コシヒカリ）。 早植：生育は概ね順調に推移しているが、藻類やガス害のほか、いもち病や斑点米カメムシ類の発生が一部で見られる。 普通期：生育は概ね順調に推移しているが、6月の日照不足や降雨の影響により分げつ数はやや少ない傾向にある。藻類の発生も各地で見られる。

1 気象経過（前橋地方気象台の気象データ、7月は第3半旬までのデータ、参考資料参照）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
気温(平年差)	+2.3℃	+1.7℃	+0.0℃	+0.6℃	—	—	—
降水量(平年比)	110%	54%	187%	196%	—	—	—
日照時間(平年比)	89%	124%	94%	135%	—	—	—

2 生育概況

(1) 概要

ア 早期・早植栽培（6月15日以前の田植）

早期栽培は、茎数は確保されており生育は順調。6月以降の曇天、降雨により「コシヒカリ」の出穂期は平年並～やや遅れる見込み。

早植栽培は、6月下旬から7月上旬が日照不足傾向であったが、全体として生育は順調に推移している。一部地域でガス害による下葉の枯れや藻類が発生している。出穂期は地域による差はあるものの、概ね平年並みとなる見込みである。

イ 普通期栽培（6月16日以降の田植）

分げつ前期から分げつ盛期で、生育は概ね順調に推移している。6月以降の曇天・降雨の影響により分げつ数は平年並からやや少ない傾向がみられる。また、藻類の発生が各地で目立ち、ガス害による下葉枯れや赤枯れ症状なども散見される。

(2) 病害虫・障害等の発生状況

ア 早期・早植栽培

育苗期間では、苗立枯や強風による葉先枯れ等の被害が一部で見られた。

本田害虫では、中山間地域を中心にイネドロオイムシやイネミズゾウムシの発生が

みられる。その他の地域では、葉いもち病及び紋枯病の発生が平年並である。

また、イネカメムシの発生については昨年と比較して少ない。

障害では、藻類及びガス害が平年並程度に発生している。

イ 普通期栽培

病害虫では、縞葉枯病、イネツトムシ、イネミズゾウムシ等の発生が一部で見られるものの、発生程度は概ね平年並である。またイネカメムシの発生については昨年と比較して少ない。

障害では、藻類及びガス害が平年並程度に発生している。

(3) 作況ほ等の調査結果

ア 作況ほの調査結果（表 1）

県平均の移植後 20 日の草丈は 29.9cm(過去平均比 105%)、茎数は 167 本/㎡(同 93%)、移植後 40 日の草丈は 53.9cm(同 108%)、茎数は 457 本/㎡(同 93%)であった。

イ 農業技術センターの生育基本調査結果

稲麦研究センター（6 月 25 日移植）

「あさひの夢」の移植後 20 日の草丈は 34.4cm（奨励品種決定調査過去 10 か年平均差-2.7 cm）、茎数は 306 本/㎡（同比 85%）であった。

表 1 水稻作況ほ調査結果（地域別・作期別）（ ）内は平年比

調査項目 地区	移植期 月/日	移植後 20 日調査			移植後 40 日調査		
		か所数	草丈 cm	茎数 本/㎡	か所数	草丈 cm	茎数 本/㎡
県	6/8(+2)	14/15	29.9(97)	167(93)	5/15	53.9(108)	457(93)
中 部	6/17(+2)	4/4	34.0(105)	184(91)	0/4	—	—
西 部	6/17(+7)	3/4	31.8(106)	120(78)	1/4	65.9(103)	359(91)
北 部	5/22(±0)	4/4	28.3(103)	218(122)	4/4	50.9(109)	481(94)
東 部	6/18(+2)	2/3	34.3(103)	156(103)	0/3	—	—
早期・早植	6/1(+4)	8/10	32.1(113)	176(88)	5/10	53.9(108)	457(93)
普 通 期	6/21(-1)	4/5	33.6(97)	159(106)	0/5	—	—

注 1) 県、地区、作期別の平均値はいずれも算術平均とした。

2) 移植期欄の()内の「—」は早い、「+」は遅いを示す。

3) 7 月 15 日現在で調査時期となったほ場のみの値で、か所数欄は〔調査か所／設置か所数〕を示す。

4) 早期・早植：6 月 15 日以前の田植。普通期：6 月 16 日以降の田植。

(4) 作柄のまとめ（表 2）

各地域の作柄は、すべて「並」であり、県全体では「並」が見込まれる。

表 2 地帯別作柄概況 () 内は農畜産課・地区農業課

地域別	作柄	概 況
中 部 (中部) (渋川) (伊勢崎)	並	・ 早植栽培：分げつ後期～幼穂形成期。移植作業は順調に進んだ。ガス害、藻類の発生が散見される。6 月下旬の日照不足の影響により分げつが不足傾向である。 ・ 普通期栽培：活着期～分げつ後期。麦の収穫は早まったが、用水関係から移植作業は平年並に進んだ。除草剤の薬害、ガス害、藻類の発生が散見されるが、発生状況は平年並。地域によってはカメムシ類が確認されているが昨年と比較すると発生は少ない。
西 部 (西部) (藤岡) (富岡)	並	・ 早植栽培：分げつ盛期～幼穂形成期。初期生育は平年並。 ・ 普通期栽培：活着期～分げつ盛期。一部地域で水不足による移植の遅れが見られ、生育も平年より遅れている。 平年並に移植を完了した地域の生育は概ね順調である。渇水により用水不足が懸念されたが、6 月上旬以降の降雨によって影響は回避された。
北 部 (吾妻) (利根沼田)	並	・ 早植栽培：分げつ盛期～幼穂形成期。育苗時には、一部でもみ枯細菌病が散見された。初期生育は緩慢だが回復傾向で、出穂は早まる見込み。藻類の発生や、イネミズゾウムシがやや多い。
東 部 (東部) (桐生) (館林)	並	・ 早期栽培：穂ばらみ期～出穂期（コシヒカリ）。幼穂形成期～減数分裂期（あさひの夢、にじのきらめき）。生育は順調で茎数は確保されている。コシヒカリの出穂は 6 月下旬以降の曇天により平年並～やや遅れる見込み。斑点米カメムシ類の本田侵入が確認されているが発生は少ない。 ・ 早植栽培：分げつ盛期～幼穂形成期。葉いもち病、紋枯病の発生がやや多い傾向である。斑点米カメムシ類の本田侵入が確認されているが発生は少ない。 中山間地では、イネドロオイムシの発生が散見される。 ・ 普通期栽培：分げつ前期～分げつ盛期。移植後は平年を下回る気温で推移したことから生育がやや停滞したものの、その後回復している。藻類・ガス害が多い。

3 技術対策

(1) 全般

気象庁の向こう 1 か月および 3 ヶ月の長期予報では、高温傾向が続くことが予想されているため、高温による生育の前進が見込まれる。また、穂ばらみ期～登熟期が高温となった際は、不稔や白未熟粒・胴割粒等の発生が懸念される。

(2) 早期・早植栽培

ア 穂肥は葉色や生育量および幼穂長を確認して、適期・適量を施用して収量の確保と高温障害（白未熟粒・胴割米）の軽減を図る。

イ 病害虫は、天候や今後の発生状況および発生予察情報を踏まえ、適期防除に心がける。ばか苗病の発生が見られる場合は、株ごと抜き取りを行う。

ウ 穂ばらみ期から出穂後 7 日までは、湛水管理とし、それ以降は間断かん水を基本とする。ただし、穂ばらみ期以降に高温が続く場合は、田面の高い部分が水で隠れる程度にかん水し、足跡に水が残る程度に自然減水したのち、再びかん水を実施する「飽水管理」を繰り返したり、夜間入水の実施や、かん水回数の増加で地温低下を図る。なお、掛け流しかん水は用水不足となるためなるべく控える。また、出穂後の高温・強風時や台風襲来時は、風がやむまで湛水管理を行い、品質低下を防止する。

(3) 普通期栽培

ア 水管理は浅水で管理を行い、分げつの確保を図ることを基本とするが、水温が高い場合はこまめなかん水の実施で水を入れ替え、地温低下を図る。

イ 有機物の分解によるガス害が懸念されるほ場では、間断かん水や軽度の中干しによりガスの放出を促す（夜間落水、日中入水）。有効茎が確保できたほ場では中干しを開始し、生育量の制御と根の健全化を図る。

ウ 中干し後は根腐れ防止のため間断かん水を基本とするが、高温が続く場合には飽水管理を実施する。

エ 中干しに合わせ、ケイ酸カリ（20～40kg/10a）または塩化加里（10kg/10a）の追肥を行い、根の機能回復を図る。

オ 穂肥は葉色や生育量および幼穂長を確認して、適期・適量を施用して収量の確保と高温障害（白未熟粒・胴割米）の軽減を図る。

カ 天候や病害虫の発生状況および発生予察情報を踏まえ、適期防除を心がける。ばか苗病の発生が見られる場合は、株ごと抜き取りを行う。稲こうじ病の発病履歴のあるほ場では、薬剤により防除適期が異なるが出穂 20～10 日前を目安に防除を行う。

《参考資料》

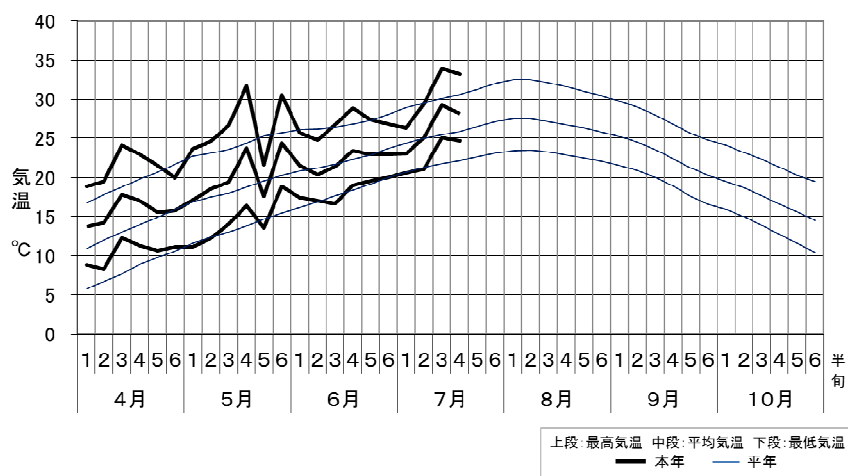


図1 稲作期間の気温（前橋地方気象台）

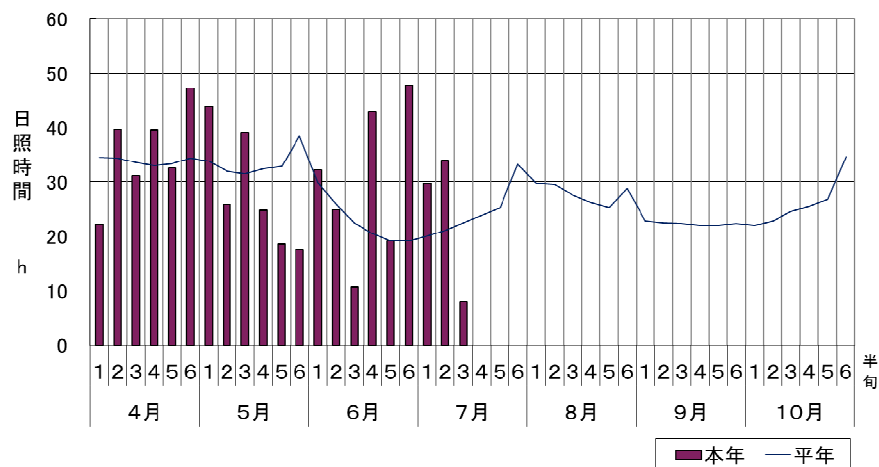


図2 稲作期間の降水量（前橋地方気象台）

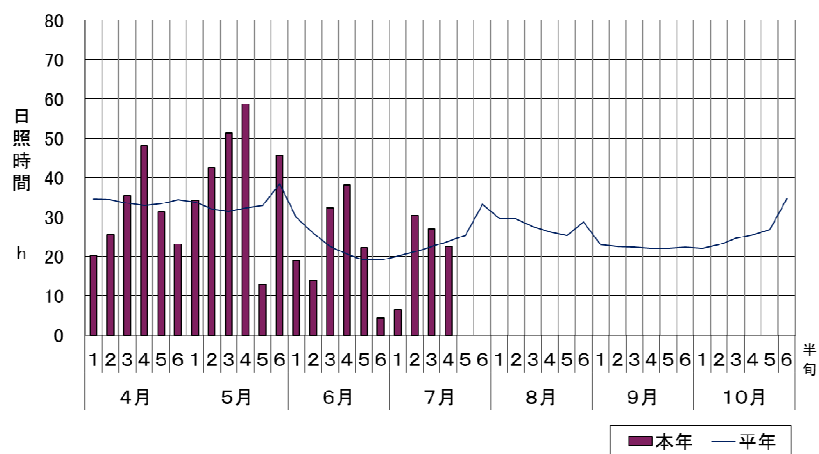


図3 稲作期間の日照時間（前橋地方気象台）